

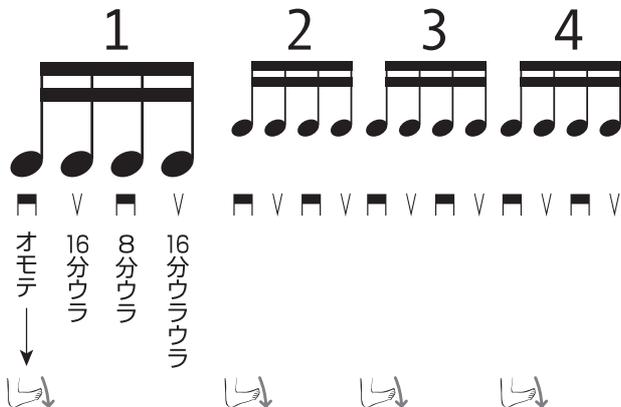
注意点1



16分のリズムを理解して 基礎的なリズム練習をせよ

世の中のどの音楽をプレイするにしろ、心地良いビートを生み出すためには16分音符のリズムを把握することが大切だ。メタル系ギタリストが苦手とするリズムではあるが、ワンランク上を目指すために覚えよう。まずは、図1で1拍を16分音符で4つに分けた際の各音の呼び名を覚えよう。こういうリズムの呼び名を覚えることで、バンドメンバーとのリズムに対する意志疎通がうまくいくようになるぞ。続いてリズムの基礎練習をしてみよう。押弦ポジションは適当で良いので、各拍のオモテに足踏みを入れながら、16分でオルタネイト・ピッキングを弾いてみよう。とても簡単に思えるかもしれないが、こういったリズムの基礎トレーニングをすることで、プログレ系の変拍子にも対応できるようなリズム感が養われるのだ。

図1 16分音符のリズムの読み方



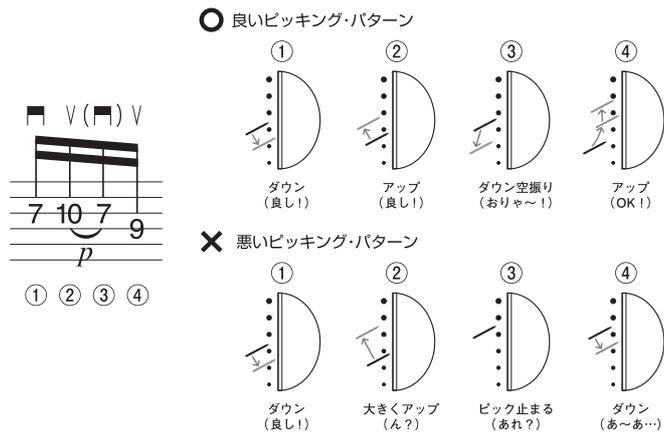
注意点2



脱初心者への第一歩 16分のダウン空振り

このフレーズでは、1小節ごとにアクセント位置が変わっているの、譜面を見ながらその位置を理解することが大切だ。実際に練習する際には、必ず各拍子のアタマで足踏みをし、アクセント位置では強めのピッキングを行なうこと。そうすることで、リズムを身体に覚え込ませることができる。次に2小節目だけに登場するプリングによる空振りに注意してもらいたい(図2)。ここではダウンの空振りが入っていて、初心者には少々難しい内容となっている。16分ウラをアップした後、プリング時に右手の動きが止まり、16分ウラウラでダウンしてしまっただけ。ハンマリングやプリングを行なう際にピッキングが止まることなく、常に手の振りをリズムに合わせてリズムを感じる事が大切だ。

図2 アップ・ピッキングの空振り



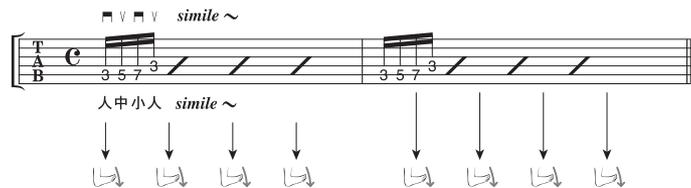
~コラム10~

地獄の戯れ言

ここでは、メトロノームを用いた効果的なリズム練習を伝授しよう(図3)。やり方は、メトロノームに合わせて足踏みを入れながら“ドレミファ”を弾くということ。まずは1小節目を弾いてみよう。これはすべて4分のオモテに足踏みを入れる。簡単でしょ? これに慣れてきたら、2小節目を弾いてもらいたい。ここでは、8分ウラに足踏みを入れるのだが、足踏みのズレに惑わされずに弾くのは意外と難しい。この練習をすることで、拍子のオモテとウラの感覚を掴めたり、リズム感を養えるので頑張って取り組もう。

地獄の足踏みリズム練習

図3 足踏みリズム・トレーニング



1小節目はオモテに足踏みを入れ、2小節目は8分ウラに足踏みを入れる。